

IV-159

ダム事業の進捗状況と住民意識の変化について

秋田大学 学生会員 船木 孝仁
 アジア航測(株) 正会員 滝口 善博
 秋田大学 正会員 木村 一裕
 秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1. はじめに

ダム事業などの大規模な社会基盤整備は、その必要性にも係わらず、事業の実施が次第に困難になってきている。それは、自然や生態環境に対して、少なからぬ影響が避けられないことのほかに、波及効果として期待されている地域開発効果に対する疑問、地域のコミュニティの変容などといった、マイナス面に対する不安によるものと思われる。

また、住民意識として、事業の意義や期待される効果に対しては大凡の部分で理解しながら、日常生活において、どうしても失いたくないものに対する執着が考えられる。そうしたことで事業の滞りがあるとすれば、細心の配慮をもって事業の理解を図ることが求められよう。このような住民意識の問題は、効果に対する期待感と見通しとのギャップや、生活におけるこだわりの部分と、それに及ぼす影響度合いの見通しの問題として理解することもできよう。

以上の観点から、本研究では進捗状況の異なるダム建設地域の住民意識から、社会基盤整備に対する期待と不安を、住民の抱いている見通しという視点から考察することを目的としている。

2. 調査の概要

本研究では4つのダム関連地域に住む20歳以上の人を対象者に、平成8年11月に調査を実施した。調査内容はダム事業にともなう生活環境、自然環境の変容等に対する意識についてである。表-1に対象地域とダムの進捗状況を示している。A、Bはいずれも計画中のダムであり、Cは建設中、Dはすでに供用しているものである。回収数はA地域249票、B地域221票、C地域180票、D地域273票であった。

表-1 調査対象地域とダム事業の進捗状況

地域	進 捗 状 況
A	計 画：ダムサイト位置、地質状況調査中
B	計 画：ダムサイト概ね決定、審議会開催
C	建設中：工事用道路、付け替え道、工事中
D	供 用

3. ダム事業に関する関心度と期待感

ダム事業に対する関心度と期待感について、図-1に示している。A～Cの地域では期待度にくらべ

関心度が高くなっており、とくに工事中のC地域では、関心度が高い。またD地域については、事業が完了したこともあって、過去における期待感に比べ、現在の関心度が低下しており、事業の過程において、住民の関心が変化していることがわかる。

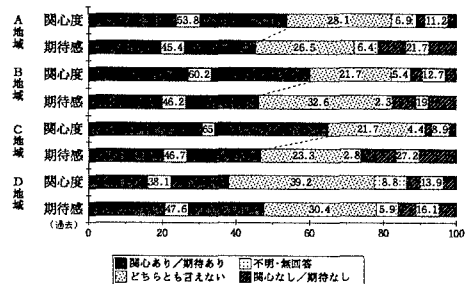


図-1 ダム事業への関心度と期待感

4. 「失いたくないもの」とそれへの影響

図-2にはA地域の住民の、日常生活において失いたくないものと、それに対して、どの程度影響があるかという見通しを示している。失いたくないものとしては、「澄んだ水の流れる川」が最も高く、次いで「きれいな空気」、「水田や農地」など、自然や生態環境に関するものが高くなっている。生活や文化的なことについては、「山菜のとれる場所」、「なつかしい風景」が高い値となっている。全体として空気や水を除けば、影響を受けるとする割合のほうが高くなっている。

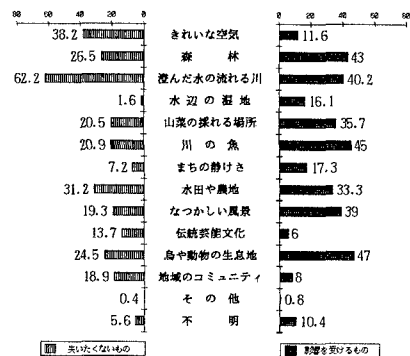


図-2 A地域での「失いたくないもの」と事業による影響

5. ダム事業の進捗における意識の分類

ここでは、ダム事業などの社会基盤整備の進捗において、「失いたくないもの（こだわり）」とそれへの「影響の見通し」に対する認識について分析を行った。先の図-2に示した項目に対する認識については、次のような4つに分類できる。

- 認識①：こだわりがあり、かつ影響の予想されるもの
 認識②：こだわりはあるが、影響は少ないと予想されるもの
 認識③：こだわりはないが、影響はあると予想されるもの
 認識④：こだわりもなく、また影響も少ないと予想されるもの

図-3には、B地域での分析結果を示している。グラフでは、便宜上認識①、③、②の順に示している。

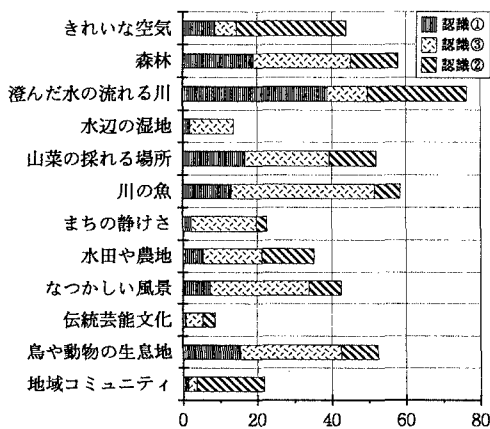


図-3 各項目に対する認識（B地域）

こだわりがあり、かつ影響があるとする対象（認識①）としては、「澄んだ水の流れる川」に関する意識が高い。これに対して「川の魚」、「鳥や動物の生息地」、「なつかしい風景」は、地域住民にとっては、影響は予想されるが、こだわりの少ない対象（認識③）となっている。これらの項目に対しては、仮に都市住民に同様の質問をすれば結果は異なってくることも考えられる。現在地域振興の柱として期待されている観光の、主たる対象が都市住民だとすれば、観光資源の保全や環境整備の方向性にも関連することから、より詳細な分析が必要であろう。また、森林や山菜については、認識①や認識③の割合が同じ程度となっている。こだわりはあるが、影響が少ないと予想される認識②としては、「きれいな空気」や「地域コミュニティ」が高くなっている。

6. こだわりと事業に対する期待感

前章で環境に対する認識の違いについて数量化第Ⅲ類により分析した結果、その反応パターンは2つに分類された。それは澄んだ水や、鳥や動物の生息

地等に対して認識①、すなわち、こだわりを持ち、また影響もあると考える傾向の強いグループとそうでないグループである（以下それぞれグループ①、グループ②とする）。そこで、2つのグループについて、ダム機能や地域の持つ公益的な役割と、それに対する事業効果への期待感、重要度等について分析を行った。

全体として、期待感には両グループに顕著な差や進捗の違いによる傾向も見られなかったが、地域イメージの向上や交流に対しては違いが見られた。図-4に示すような地域イメージの向上に対する期待感については、計画段階であるA、B地域ではグループ①で低く、逆にC、D地域では高いため、A、B地域では理解を深める方策が必要と言える。

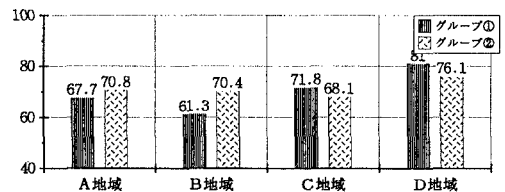


図-4 ダム事業による地域イメージの向上への期待感

地域の持つ公益的な役割としては、グループ①で自然や生態環境について意識が高くなっていた。また、地域住民自身が受益者となる防災や発電などに対しては、グループ①、②で差はみられなかった。しかしながら、図-5に示すような下流河川の水量の確保に関しては、グループ①で重要が相対的に低くなっている。

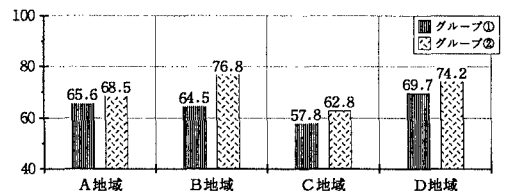


図-5 下流河川の水量確保に対する期待感

7. おわりに

以上により、ダム事業の対象となる地域住民にとって、関心の向けられる要因はさまざまであるが、広域的に地域の特性を生かそうとする意識の低さがかがえた。また、効果に対する期待感や、公益性に対する理解が低いのにに対し、自然環境等には意識が高いことが分かった。今後、都市住民の意識と相互に分析することで、環境への価値観の違いやダム事業の配慮について検討していきたいと考えている。